

『哲学の探求』第29号刊行にあたって

昨年度、私たちの研究集会は「全国若手哲学研究者ゼミナール」から「哲学若手研究者フォーラム」へと改名いたしました。そして昨年の7月14日(土)、15日(土)の両日、「哲学若手研究者フォーラム」として初めての研究集会在、東京晴海海員会館で開催されました。この『哲学の探求』第29号は、昨年のフォーラムでの個人研究発表、ならびにテーマ・レクチャーに基づいたものです。

哲学若手研究者フォーラム(通称「若手フォーラム」)は、年一回開かれる合宿形式の研究集会で、主として大学院生やオーバードクターに対し、大学、地域、専門分野の垣根を越えて哲学を議論する場を提供することを、その目的としています。また、財政的援助の類はいっさい受けておらず、毎回の参加者からの参加費と雑誌『哲学の探求』の売り上げだけで若手フォーラムは運営されています。

昨年2001年度の若手フォーラムには、関東圏の諸大学をはじめ、関東圏以外の大学からも多数参加していただき、合計20の大学から70人ほどが集まる大きな研究集会となりました。12コマの個人研究発表と共に、テーマ・レクチャーに小林道夫氏、戸田山和久氏、野家啓一氏の三氏をお招きして「科学時代の哲学」について発表していただきました。当日は質疑応答の時間だけでなく、休憩時間や懇親会、そして一部の方の間では深夜、早朝まで活発な議論がなされました。

このように昨年度のフォーラムは、活気のあるとでも充実したものとすることができました。これも個人研究発表者の方々、テーマ・レクチャーの方々、そして参加して下さったすべての参加者皆様のおかげです。昨年度世話人会を代表してお礼を申し上げたいと思います。

2002年度の若手フォーラムは7月13日(土)・14日(日)に、東京八王子の大学セミナーハウスで開催予定です。この『哲学の探求』第29号には、テーマ・レクチャー「哲学の現場?—哲学の応用性とアクチュアリティ—」でお話いただく三人の方による講演要旨も掲載されています。今年度のフォーラムへの詳細やご質問については、巻末にあります今年度の各世話人までお問い合わせいただくようお願いいたします。

なお私たちの研究集会在「哲学若手研究者フォーラム」として装い新たにスタートしたことは冒頭に記したとおりですが、この『哲学の探求』は雑誌としての継続性を重視し、雑誌名やスタイルをそのまま引き継いでいます。

2002年3月24日

2001年度 哲学若手研究者フォーラム世話人代表
福田 敦史